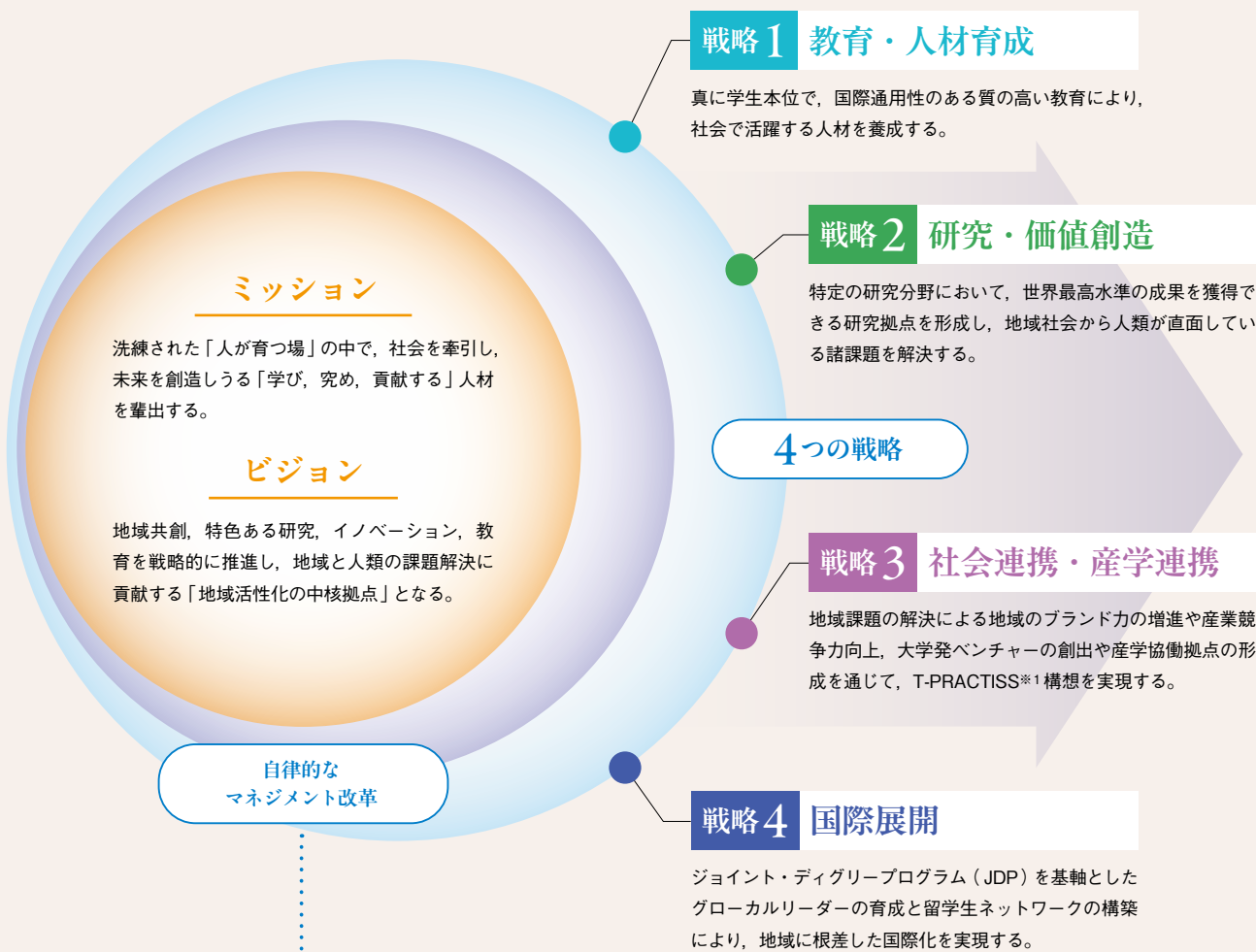


日本トップクラスの地域の中核大学を目指して

岐阜大学は、総合知を活かした研究力を強化し、その強みをさらに伸ばすことで、
地域の中核大学としての役割を果たすことを目指し、中期のビジョンと4つの戦略を策定している。



学長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

ガバナンス	一法人複数大学制の下、機構(法人)と構成大学間の連携強化、経営・教学の分離および監督・執行の分離体制の整備
資源配分	ポイント制による教員人件費管理、トータルバジェットでの資源配分、成果に基づく指標の活用など
地域貢献	地域ステークホルダーとの対話のもと、オープンイノベーション推進施設・設備や仕組みを整備など
財源の多様化	各種外部資金の獲得、クラウドファンディング、保有資産活用、研究成果活用促進への出資など
DEIB※2 宣言に基づく人事	多様性、公正性、包摂性を軸とした構成員の帰属性向上、優秀で多様な人材の確保など

※1 東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として、東海地域の未来に向けた社会イノベーションに貢献するとともに、多様なステークホルダーとの緊密な協力・共創により、社会と人材・資金・知の好循環を形成し、大学機能の持続的強化を図る価値創造の流れを創出するモデル

T-PRACTISS: T = THERS(Tokai National Higher Education and Research System) PRACTISS = Project to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society

※2 Diversity (多様性), Equity (公正性), Inclusion (包摂性) & Belonging (帰属性)

戦略1 教育・人材育成

真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する。

岐阜大学は、これまで進めてきた教育改革の成果をベースに、
2020年度以降は、法人統合のメリットを活かして、教育改革をさらに加速させている。

教育を軸に産学金官が連携し、地域変革の核となる ぎふ地域創発人材育成プログラム SPARC-GIFU 進行中

岐阜大学は、文部科学省による「地域活性化人材育成事業～SPARC～」(2022年度採択)の事業責任大学として、「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」事業を、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学と連携して推進している。

このプログラムでは、3大学で「(一社)高等教育ネットワーク岐阜」を設立後、2024年3月28日に文部科学省から大学等連携推進法人として認定を受けたことで、3大学で連携開設科目の開講が可能となった。また、地域の産学金官各組織を結集したSPARCの活動を推進する「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」を結成し、運営協議会においては地域が求める人材像やその資質・能力を定めている。同年3月13日には、これらの結成を記念し、事業の趣旨や目指すべき具体像などを社会に発信するシンポジウムを開催した。さらに岐阜、飛騨、東濃に地域ラボを設置し、地域社会をフィールドとした実践型PBL (Project Based Learning) や社会人向け教育「スゴ腕リーダー育成講座」を開講した。今後も地域社会との共生を念頭に、課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業を目指し、地域社会の発展に貢献する人材を育成していく。



岐阜大学の魅力を活かす 教育改革の推進

岐阜大学は、教育基盤のDX化、高大連携教育、理系女子応援プロジェクト、博士課程学生に対する研究に専念できる仕組みづくりなど、教育改革を推進している。

「TACT (TOKAI Academic Combination Tools)」の共同運用

名古屋大学との遠隔のオンライン講義やテストの共同実施に加え、テキストや資料、学生自身の学習記録の入手が容易になった。これによりコンテンツの相互利用による高い教育効果が期待されている。

学生ステータスシステム「crescendo」

学生ステータスシステム「crescendo」の運用を2023年度後学期から開始。教育成果や個人の能力と特性を見える化し、学修者本位の教育を支援すると同時に、就職活動時の自己PRツールなどに役立てることができるようになった。

航空宇宙人材の育成

岐阜県内の高校生を対象に、JAXAの協力を得て、岐阜県とともに工学部附属宇宙研究利用推進センターおよび地域協学センターが特別プログラムを提供している。高大連携講座として基盤教育プログラム「宇宙工学講座」を開講し、実践プログラムとしては、高校生が制作した人工衛星を打ち上げる「ぎふハイスクールサット (GHS)」プログラムを実施している。高校生が制作した人工衛星は2025年8月に打ち上げられ、同年9月に国際宇宙ステーションから宇宙空間へ放出された。地上局との通信にも成功し、2026年1月には予定どおり大気圏へ再突入してミッションを完遂した。

ぎふ理系はばたき応援プロジェクト

岐阜県内の小中高生、保護者、教員などを対象に、研究者が理系の魅力を伝えとともに理系分野で活躍する女性のキャリアパスやロールモデルを提示することで理系進路選択を応援している。本取組は、2026年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム (科学技術振興機構)」に採択された。

次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)

メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業として、博士課程学生に対する経済的支援のみでなく、キャリア支援、他分野の研究者との交流促進、産業界や国際舞台への優秀な博士人材の輩出を目指している。2025年度には延べ91名の支援を実現した。



学生ステータスシステムの活用



宇宙工学講座
JAXA等見学ツアー

戦略2 研究・価値創造

特定の研究分野において、世界最高水準の成果を獲得できる研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する。

岐阜大学は、名古屋大学とのシナジーを活かした東海国立大学機構の連携拠点支援事業として、人類課題の解決、地域創生に貢献する研究を推進している。

生命の本質を追及する国際研究を展開 糖鎖生命コア研究所（iGCORE）

糖鎖（核酸、タンパク質と並ぶ第3の生命鎖）の機能を理解し、新しい生命原理を明らかにするとともに新たな生命原理を応用した医療の革新を目指している。



2023年に糖鎖生命コア研究所の岐阜研究棟が大学キャンパス内に完成し、糖鎖化学、イメージングなどを専門とする研究者が集まって、アンダーワンルーフのもと、分子レベルでの糖鎖研究を中心に活動している。また、名古屋大学の糖鎖生物・糖鎖医学の研究者らとともに、それぞれの強みを活かして、生命原理の解明や医療革新につながる基礎研究を推進している。

研究所は、若手研究者・大学院生の国際派遣（フランス、カナダ、台湾など）を実施するなど、国際的視点を持つ高度人材の育成にも尽力しており、その成果として、若手研究者・大学院生が国際学会で賞を授与されている。さらに、研究所に所属するゲラルデル特任教授は、リール大学（フランス）にも籍を置いており、そのリール大学との国際交流を基に、本学連合農学研究科で共同指導学位プログラムを2024年度から開始している。

東海地域で革新的な航空機産業技術と人材を創出 航空宇宙生産技術開発センター（IPTeCA）

日本の航空宇宙生産の約50%が集中する東海地域において、産学官が一体となり、航空宇宙産業の国際競争力を高めるために、人材育成や技術開発に取り組んでいる。



岐阜大学と名古屋大学は、航空機設計から製造、飛行試験までを網羅する、日本唯一のカリキュラムを構築しており、これまで学生、社会人併せて約200名が修了した。産業界と連携し、即戦力となるエンジニアを育成することで、航空宇宙産業の活性化に貢献している。また、高品質・多品種少量生産という航空宇宙産業特有の課題解決を目指し、大学と企業が共同で研究開発を進めている。これまでに8件の特許を取得しているほか、生産の効率化と品質向上を図り、最終的には実際の生産現場に成果を実装することで、航空宇宙産業全体の生産性向上を目指している。2025年3月には、米国ボーイング社、三菱重工業（株）、川崎重工業（株）、（株）SUBARUと「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）」を結成し、グローバルな研究開発体制を構築している。CSAPの研究テーマは新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の先導研究に採択され、その先進性が評価されるとともに成果が期待されている。研究開発を通じて航空機産業の持続的な成長に貢献していく。

世界の創薬研究に変革をもたらす

One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター（COMIT）



「ヒトと動物の疾病は共通」、すなわち「One Medicine」の視座にたち、医学－獣医学の境界を越えた新たな学際領域を開拓している。医学、獣医学、薬学、工学などの研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し、有望な創薬シーズを高度に選別し、治験につなげることでヒトと動物の創薬研究を変革していく。

「One Medicine」の視座にたち国際的に我が国が後れをとる医薬品開発の成功率を高めるだけでなく、「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」の実現を加速させている。さらに、岐阜大学大学院自然科学技術研究科のカリキュラムである「創薬リサーチマネジメント人材実践の育成プログラム」において、2025年度は第一期生として25名が修了した。将来のリサーチマネジメント担当者や創薬研究者などを輩出することで、我が国における創薬研究人材不足の解消につなげていく。



戦略3 社会連携・産学連携

地域課題の解決による地域のブランド力の増進や産業競争力向上、大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて、T-PRACTISS※構想を実現する。

岐阜大学は、地域の産学連携オープンイノベーション拠点をベースに、アカデミアと産業界の共創による研究開発の成果を社会実装、地域活性化につなげていく。

地域に開かれた産学連携・社会連携の拠点

Tokai Open Innovation Complex 岐阜サイト （施設愛称：OKB岐阜大学プラザ）



東海地域における社会課題の解決に取り組み、イノベーションを創出して地域の活性化を図るため、地域の産学連携オープンイノベーション拠点「Tokai Open Innovation Complex岐阜サイト」を、2024年2月にオープン。

Tokai Open Innovation Complex（TOIC）は、共同研究等による企業の活動拠点、スタートアップの活動拠点、新たなオープンイノベーションを創出する産学交流拠点としての役割を担っている。重点取組領域であるカーボンニュートラル、先端素材、デジタルトランスフォーメーションにおいては、地域のさまざまなステークホルダーとの協働により「新領域で活躍する研究者」との交流イベント等の企画・開催、岐阜大学協力会と名古屋大学協力会との連携、産学連携コーディネーターやURAによる支援、さらに大学発スタートアップの活動拠点の提供等を行っている。

TOIC岐阜サイトの特徴的な取り組みとしては、研究者と企業人との共創の場である「事業創造の現場で直面する課題とマネジメント」を実践できるリカレント教育プログラムや、地元金融機関である大垣共立銀行がOKB岐阜大学プラザ内に開設したオープンイノベーション拠点「OKB SCLAMB」において起業プログラムやメンター支援、ステークホルダーとの共創あるいはマッチングの場を提供など、地域の特徴を活かした産学連携を進めている。



岐阜大学発、スタートアップの創出・成長を支援する アントレプレナーシップ教育の推進

岐阜大学は、学術研究・産学官連携推進本部の機能を強化し、岐阜大学発のスタートアップ創出支援・起業家育成のための専任支援人材の配置をはじめ、研究成果から生まれる起業シーズの発掘・育成と経営者とのマッチング促進、授業や起業部との連携を高めたアントレプレナーシップ教育の推進、起業ファンド申請支援など、多種多様な支援体制を構築している。



岐阜大学公認起業部の活躍

社会課題解決のための事業創出を担う起業家精神を持つ人材の育成・輩出、社会的インパクトのある学生スタートアップの創出、研究成果の社会展開、東海地域活性化/エコシステム構築への貢献を目指した活動が成果をあげている。

東海地域の起業家育成プロジェクト「Tongaliプログラム」に参画

岐阜大学は、Tongaliプログラムに幹事校として積極的に参画し、ピッチコンテスト、ビジネスコンテストなどにおいて受賞する優秀なチームを数多く輩出している。

※東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として、東海地域の未来に向けた社会イノベーションに貢献するとともに、多様なステークホルダーとの緊密な協力・共創により、社会と人材・資金・知の好循環を形成し、大学機能の持続的強化を図る価値創造の流れを創出するモデル

全国最大級のビジネスコンテストをはじめ数々の主要コンテストで受賞

2021年	キャンパスベンチャーグランプリ全国大会 文部科学大臣賞
2022年	SDGs探究AWARDS2022 最優秀賞（全国1位）
2023年	ビジネス創造コンテスト 最優秀賞（全国1位）
2022年	Tongali ビジネスプランコンテスト
～	4年連続複数チームが受賞
2025年	（2022年 最優秀賞 2023年 優秀賞 2024年 優秀賞ほか）
2025年	キャンパスベンチャーグランプリ全国大会 日本MITベンチャーフォーラム賞
	その他、数々のコンテストで上位入賞

戦略4 国際展開

ジョイント・ディグリープログラム（JDP）を基軸としたグローバルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により、地域に根差した国際化を実現する。

岐阜大学は、地域に根ざした国際化と、成果の地域還元によりグローバル化を実現していく。

岐阜大学の強みを活かした国際展開

グローバル推進機構のダイナミックな取り組み

ジョイント・ディグリープログラム（JDP、国際連携専攻）とは、日本と海外、二つの大学の連名により学位を取得できるプログラムである。グローバル推進機構は、JDPを中心とした国際協働教育の推進や、学生の海外留学支援、本学で学ぶ外国人留学生の修学・生活支援などを通して国際化を推進している。

ヨーロッパ・アフリカ大陸			アジア大陸・オセアニア			アメリカ大陸				
エジプト	2009	ベンハー大学	インド	2014	インド工科大学グワハティ校	中国	1985	サンディエゴ州立大学		
スペイン	2018	サラマンカ大学		2018	アッサム大学		アメリカ	1990	ノーザンケンタッキー大学	
ドイツ	2002	エルフルト大学		2001	アングラサ大学		1997	ユタ州立大学		
	2008	バイロイト大学	インドネシア	2006	ランボン大学		2020	南フロリダ大学		
ハンガリー	2001	バンノン大学		2010	ボゴール農科大学			マギル大学		
フランス	2014	パリ・サクレ大学		2012	ガジャマダ大学	2003	吉林大学	カナダ	2017	アルバータ大学
	2020	リール大学		2013	スプラス・マレット大学	2005	華僑大学			レイクヘッド大学
モロッコ	2024	ラバト国際大学		2021	ブラヴィジャヤ大学	2006	同済大学	ブラジル	1984	カンピーナス大学
リトアニア	2010	カウナス工科大学	オーストラリア	2022	バンドン工科大学	2007	内蒙古大学			
	2012	ヴィータウタス・マグス大学		1995	グリフィス大学	2011	内蒙古師範大学			
				2000	シドニー工科大学	バングラ	2001	バングラデシュ農業大学	大学間学術交流協定大学	
			韓国	1992	ソウル科学技術大学校	デシュ	2004	ダッカ大学	20ヶ国51大学	
				2010	高麗大学校	フィリピン	2018	マリアノ・マルコス州立大学		
			タイ	1999	カセサート大学		1998	ハノイ工科大学		
				2003	チェンマイ大学	ベトナム	2018	フエ大学		
				2005	キングモンクット工科大学トンブリ校	マレーシア	2016	マレーシア国民大学		
				2025	シーナカリンウィロート大学					